

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 12 月 28 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3870104878		
法人名	有限会社 ファイン・ケア・サービス		
事業所名	グループホーム優輝		
所在地	松山市北斎院町476番地1 (電話) 089-972-8810		
管理者	上岩 茂		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 12 月 3 日	評価確定日	平成 20 年 1 月 4 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 10 月 20 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.3 人	

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( )円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

### (3) 利用者の概要 (平成 19 年 10 月 20 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護 1	1 名	要介護 2	8 名
要介護 3	7 名	要介護 4	1 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 81 歳	最低 71 歳	最高 92 歳

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは幹線道路から少し入った閑静な住宅街にある。訪問客を優しく迎える外観で周りの景観に溶け込んでいる。開設から3年目の若いホームであるが、開設当初から地域との交流が開始されており、そのつきあいの深さが建物の佇まいにも表れている。目の前に公園がある立地の良さもあり、子どもが遊ぶ声が聞こえ、時間がゆっくと流れていることが感じられる。ホームでは利用者の自立支援を見据えたケアを行っており、管理者は自立の定義を「自分でできる、自分で選べる」と明文化している。この理念により職員は「待つ」ことを重視しており、その人らしい生活を見守っている。玄関に「まもるくんの家」のステッカーを貼り、地域貢献にも力を入れている頼もしいホームである。

## 【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)  
改善課題を「スピン・オフ・プロジェクト」として、前向きに取り組んでいる。解決方法は職員主導方式で行っており、ボトムアップが期待できる。外出についてはデータ化することで客観視できるような取り組みを行い、改善が実感できる。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)  
各項目を職員間で話し合い、管理者が取りまとめた形で自己評価を行っている。前回と今回の評価項目が異なるため、話し合いに時間を要したようであるが、地域というキーワードについてはすでに実践しているホームなだけに、理解は深い。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)  
地域と良好な関係があるので、運営推進会議も上手く活用されている。定期的にきちんと開催されており、すでに9回を数える。議題に福祉体験の受け入れや季節の行事などがあり、地域貢献や利用者のサービス向上について話し合われている状況が理解できる。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)  
ホーム便りは開設以来定期的に発行しており、利用者の生活状況やホームの様子を家族に伝えている。業者に依頼しているかのような充実の紙面は、ホーム側から情報を提供することで、家族も意見や苦情を切り出し易いとの思いが管理者にあるもので、通信を見るだけでホームの家族への配慮を垣間見ることができる。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)  
ホーム建設中に自治会から声かけがあったような地域性が功を奏して良好な関係が構築されている。これまでは催し物が多く調整が必要であったためホーム主導であったが、地域と利用者も馴染みの関係が生まれているので、今後は利用者も住民として普段着のつきあいに力を入れて行く予定である。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム優輝

(ユニット名)

1F ユニット

記入者(管理者)

氏名

上岩 茂

評価完了日

平成 19 年 10 月 23 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 経営理念に【地域に貢献出来る会社を目指す】を明記し、地域から何かをしてもらうだけでなく、私達も地域のために貢献出来ることを実施していく方針を立てている。地域貢献の一環として【まもるくんの家】にも登録している。また、町内会や子供会、また地元中学校との交流も行っている。  (外部評価) ホーム開設時はまだ地域密着型サービスは開始されていなかったが、管理者にはホームは地域と共にとという理念があり、当初から地域生活を意識した理念が作られている。また、地域貢献という前向きな考えも理念に取り入れ、先駆的な取り組みをしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 優輝の運営理念は、会社側が作ったものでなく、職員さんに、【どんなグループホームにしていきたいと思っていますか】というアンケートを実施し、職員さんの意見や思いを集約したものになっている。また日々、運営理念の実践に向けて、ケアの質の向上に取り組んでいる。  (外部評価) 管理者の熱い思いは職員に伝わっており、理念を共有していることが分かる。利用者の自立支援を「自分でできる、自分で選べる」と具体化しており、ケアの基本を明確にしている。具体化された理念は職員のケア実践にとっても有用である。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) ご家族や地域の代表者などが出席している運営推進会議において、ホームの理念や方針などを理解していただけるよう報告し、お伝えしている。また、日々の活動についても、ご家族や地域の代表の方などに、理解していただけるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 目の前の公園へのお出かけや近隣の散歩を日常的に行っており、地域の方とのふれあいを大切にしている。また、毎年、近隣の住民の方と一緒に、防災訓練も行っている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 毎年、町内盆踊り大会に参加させていただいている。今年には町内会からの要請で、焼き鳥の店も出店させていただいた。また町内子供会の子供達と優輝の入居者さんと一緒に、【お菓子作り体験教室】も開催した。  (外部評価) ホーム建設中に自治会から交流についてのアプローチがあり、町内活動はもちろんのこと、地区の小学生との料理教室など積極的に交流を行っている。月々の多彩な行事のため、地域との窓口を職員が担っていることで、利用者が受け身になっている感がある。	※	ホーム開設後3年、管理者の努力で地域とも馴染んでいる。今後は利用者も地域住民のひとりとして地域とゆっくり付き合う関係に移行すべき時期であると考えられ、利用者が地域との窓口になるような取組みを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 目の前の公園で、不審者の遭遇や事故による怪我が発生した場合、地域の住民の方がいつでもホームに駆け込んでいただけるよう、【まもるくんの家】に登録している。また、町内の方に、その事を地域コミュニティ新聞にて、周知している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価及び外部評価の結果、改善が必要な問題について、職員参加型の問題解決プロジェクトを立ち上げ、日々改善に向けて努力している。プロジェクトの結果、すでに改善が行えた問題もある。  (外部評価) 評価内容について問題解決プロジェクトとして取り組み、質の向上に努めている。また、問題を解決するためには職員の積極的な関わりが必要であると、ボトムアップに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) これまでに9回運営推進会議を開催しており、ホームの活動や方針について報告させていただいていると共に、ホームで抱えている各種問題点について、参加者の方にも一緒に考えていただく、問題討議型の会議の運営を行っている。その際、参加者から出た意見やアドバイスを、サービス向上のために活かしている。  (外部評価) 運営推進会議を積極的に開催しており、地域へ理解を求める場としても有効に活用している。また、利用者へのサービス向上に努めることも地域の力が必要であるということを議題にしており、アドバイスを求める場として会議を有用に活かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市の開催している講習会や説明会には出来るだけ参加するようにしている。また、松山市高齢福祉課職員の【グループホーム一日体験研修】の受け入れを実施した。  (外部評価) 管理者がグループホーム連絡協議会の幹事として地域のホーム全体の質の向上に努めており、市担当者とも話す機会が多い。また、市職員の体験研修を受け入れるなど、共にサービスの質の向上に取り組む姿勢がみられる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員さんにも社内研修や社外研修の参加にて、権利擁護の勉強が出来るよう取り組んでいる。また、愛媛県社会福祉士会の成年後見制度担当者との交流を通し、協力・連携体制を整えている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員対象に【情報通信あゆみ】を発行しており、広く情報を共有できるよう努力している。また、高齢者虐待防止法についても、ホーム独自の資料を作成し、職員さんに配布し、虐待を行わないケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前のご家族との契約時に、ホームの方針や理念、取り組んでいる活動や契約の内容などについて、十分に説明を行っている。また、ご家族への説明が必要な事柄についても、事前に十分な説明を行うと共に、不明な点や質問等にも、お互いが納得できるよう努力している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置し、いつでも気軽に意見を出せるようにしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 入居者さんの健康状態や生活の様子などは、面会や行事への参加時などに報告させていただいている。特に病院受診の事については、その都度事前のお知らせや結果の報告を行っている。また【家族通信ほのぼの】にて入居者さんの様子を、【優輝新聞虹の架け橋】にて会社の取り組みについて毎月ご家族へ報告している。 <hr/> (外部評価) 家族の訪問時以外にも、ホーム便りを発行して利用者の暮らしぶりを伝えている。ホーム便りは管理者が開設以来定期的に発行している。構成や内容なども充実しており、家族も楽しみにしている。管理者の家族との付き合いを大切にしている思いが伝わる情報誌である。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議にて、ご家族さんの意見等を言っただき、改善や取り組みが出来るよう、努力している。また、苦情が発生した場合は、臨時のカンファレンスを開催したり、申し送りノートに記載して再発防止に努めている。 <hr/> (外部評価) 管理者には専門職として傾聴の姿勢があり、家族などの意見を丁寧に引き出すよう心がけている。職員間で共有するための連絡帳には、時間をかけて傾聴していると思われる内容が数多く記載されている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員さんと管理者と一緒に取り組む、問題解決プロジェクトなどや毎月のケアカンファレンスなどを通し、職員さんから気軽に意見が出せるよう配慮している。また出た意見や提案に対し、早期実現に向けて努力している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 柔軟な対応に向けた勤務調整を行えている。緊急時や利用者さんの状態の変化にも対応できている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 常に職員さんが働きやすい環境を構築するため、会社としても全力で取り組んでいるが、家庭の事情や業務不適などでやむを得ず退職した職員さんがいる。  (外部評価) 開設後は職員間でも馴染みの関係が構築できておらず、想定していない事柄で職員の離職が続いた時期があった。ホームも3年目を迎え、利用者や職員の馴染みの関係にも深さが見られる時期であるため、今後は職員の離職に対して利用者への影響は大きくなると考えられる。	※  ※	今までは仕方の無いことと思っていたが、職員の退職等に関わる入居者さんへのダメージを最小限度に押さえる方法について検討していきたい。  福祉職員の仕事への定着率アップに対する対策は、一ホームの問題というだけではなく、グループホーム連絡協議会や行政等と共に解決策を模索する必要がある問題ではないだろうか。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新入社員研修のプログラムを、プロジェクトの成果として作成しており、約3ヶ月を掛けて新人研修を行っている。また、社内研修を月1回のペースで開催しており、職員さんの出席率も高い。また、社外からの研修案内を職員さんに開示して、希望により研修に参加できるように配慮している。  (外部評価) 新人職員に関しては、管理者や職員が効率よく教育できるようにプログラム化されている。職員の経験に応じた研修会等への参加を促している。また、毎月の社内研修では職員が講師になることでより深く学ぶ体験など、職員のトレーニングが積極的に行われている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者は、愛媛県グループホーム連絡協議会の幹事をしており、相互研修などの機会を通し、同業他社との交流に力を入れている。また、松山市社会福祉協議会主催の勉強会に職員が出席して、地域の同業者との交流を行っている。  (外部評価) 管理者の人脈から、ホームの相互研修や同業者との交流が行われている。また、市や社協での勉強会への参加は、ネットワークづくりの一環でもあるとの認識から力を入れている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 会社として、職員さんが気持ちよく働ける環境の構築に力を入れており、待遇面の改善や懇親会などの開催も行っているが、職員のストレス軽減に向けた努力は十分ではないと思う。	※	職員さんのストレス軽減のための対策を考えていきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 半年に1回、自分の仕事についてのたな卸しをさせていただきと、自己評価の機会を作って、自分の仕事について評価できるシステムを作っている。その際、給与面などの待遇についても、自分の考えを会社に伝える手段を設け、会社が適切な評価が出来るよう取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前に利用者本人から、こういう生活をしていきたいなどの希望・要望や、困っていること、不安な点に思っていることなどについて、話を伺い、受け止めるようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前にご家族さんからも、こういう生活をさせて欲しいなどの希望・要望や、困っていること、不安な点に思っていることなどについて、話を伺い、受け止めるようにしている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に利用者本人とご家族が必要としていることを見極め、支援していくよう努力している。また、リハビリなど他のサービス利用についても、相談に乗り、必要なサービスが受けられるよう努力している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 利用者本人が安心して納得した上で、サービスが受けられるよう、本人の意欲や言葉などから、状態を確かめながら、徐々にサービスを利用出来るように配慮している。また、問題点があれば、ご家族に相談しながら、解決に向けて適切な対応を心掛けている。  (外部評価) 開設後はホームの運営を軌道に乗せるために、利用者にはホームの生活に馴染んでもらうことが重要課題であったが、3年目を迎えホームの運営も落ち着いてきている。	※	ホームではデイサービスやショートステイを行う予定はないため、利用者と一緒に馴染むためには利用予定者に遊びに来てもらうか、職員が訪問するなどが考えられる。どちらも地域の力が必要であり、地域とうまく付き合いを保っているホームであるために、先駆的な取組みを期待したい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 自立支援プロジェクトにより、利用者本人さんの【自分で出来る・自分で選べる】を基本に、職員と共に生活における役割の行動を行うことで、自立支援の取り組みを行っている。また、入居者さんの喜びを私達の喜びとして共感できることを理念とし、毎日の生活で喜怒哀楽を共にしている。  (外部評価) 利用者への「自立支援プロジェクト」という取り組みでアセスメントが十分になされており、職員間でも徹底して「待つ」という姿勢がとられている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族支援プロジェクトを通し、ご家族さんから信頼されるための取り組みを行っている。また、ご家族さんへ、利用者さんのホームでの様子やホームの取り組みなどの情報提供を行い、信頼関係を深めて、協力していただけるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族の問題に立ち入ることは出来ないが、ご家族に利用者さんの日々の様子などの情報提供を通し、より良い家族関係が築いていけるよう支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行きつけの病院や美容院などを、継続して利用出来るよう努力している。また、今までに培ってきた人間関係を継続できるよう支援している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者さん同士の関係を把握して、共に出来ることや助け合いながら出来ることを支援し、孤立しないよう配慮している。また、利用者さんの希望により、仲良しの方との一緒の入浴や散歩などにも取り組んでいる。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 入院などでやむを得ず退所になった場合も、病院へお見舞いに行ったり、ご家族さんにお会いする機会があった場合は、近況を話し合ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの思いや希望、意向などの把握に努めている。希望に添えないなど実現が困難な場合には、ケアカンファレンス等で、本人の立場に立って考え、話し合いを行い、利用者本人にとって、一番いい方法を導き出すよう努力している。 (外部評価) 管理者は、利用者の生活歴を知ることは言葉の背景や思いが分かることであると考え、利用者ごとに専用のノートを用意し、生活歴を記載している。しかし、取り組みは始まったばかりで記載内容が十分とは言えない。	※	記録ノートの取り組みに対して職員間に温度差があるように感じる。職員全員で書き方に取り決めをするなどして、徹底して取り組むことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に利用者本人やご家族から聞いたり、入居後も本人やご家族との会話の中で、理解し把握するように努力している。また、他の職員さんにも知っておいて欲しいことは、【個人ノート】に記録し、情報の蓄積が出来る体制を整えている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 朝の健康観察は看護部が行っており、いつもと違う様子は無いかの早期把握に努めている。また、その日の健康状態・活動の様子を見て、出来ること出来ないことを把握し、職員間で情報交換や申し送りを行い、適切な支援が出来るよう努力している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画作成時には、利用者本人やご家族から、希望や意見を聞き、適切な介護計画の作成に努めている。また、ケアカンファレンスを通し、職員間でも情報交換を行い、意見を集約した介護計画になるようにしている。 <hr/> (外部評価) 介護計画は本人や家族と相談の上、職員全員で話し合っ作成している。利用者には担当職員制を取っており、担当者が計画作成にも主として携わっている。職員を育てるという意義もあり、チームで作ることを念頭に置きながら関係者との調整をフォローしつつ、介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 毎月のカンファレンスでの話し合いの内容を元に、毎月介護計画の微調整を行っている。それ以外にも利用者本人の体調や行動に大きな変化が起こった際は、適時介護計画の見直しを行っている。その際、利用者本人やご家族の希望及び必要な関係者とも連絡を取り合い、適切な介護計画になるよう努力している。 <hr/> (外部評価) 介護計画の見直しは二段階になっている。大きな区切りとして介護認定時を想定しており、毎月のケア会議は調整時としている。介護計画が日々の生活の中で確認できるように、援助計画チェック表で記録している。この記録を毎月の調整事項として取り上げており、現状に即した取り組みがなされている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践などについては、経過総合記録に記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しなどに活用している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 多機能施設でないため、多機能性を活かした支援は行えないが、外部の関係機関等の協力により、個別リハビリや園芸療法など外部サービスを利用出来るよう柔軟な支援を行っている。  (外部評価) 管理者が専任であり、利用者の要望に積極的に応えている。冠婚葬祭への参加や不定期な検診、車の送迎など臨機応変に対応している。外部の諸機関へも積極的に対応を呼びかけるなど、柔軟な対応を心がけている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 防災訓練や救急救命訓練などを、地域の消防署や町内会などの協力を得ながら取り組んでいる。また運営推進会議には地域及び地区の民生委員さんにも出席していただき、情報交換などを行う中で、協力体制を整えている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 作業療法士による個別リハビリや園芸療法など、他のサービスも利用出来るよう支援している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議にも出席していただき、情報交換など協力体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者本人及びご家族さんの希望を大切に、納得されて適切な医療が受けられるよう支援している。ご家族による病院受診時も、ホームでの様子分かるよう情報提供している。 (外部評価) 利用者ごとにかかりつけ医は異なっており、それぞれの医療機関と管理者や看護師が密に連絡を取っている。また、往診が必要な利用者には、ホームの協力医療機関の紹介も行っている。受診支援としてデータ化した利用者の状態を医療機関へ事前に連絡しており、医者が適切な判断を行うための協力もしている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) かかりつけの病院を通して、専門の医師の協力を得られるよう体制を整えている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護部体制をとっており、正看護師が入居者全員の健康管理を行い、病気の早期発見・早期治療に繋げている。またかかりつけの病院の医師の往診時には、必ず職員が立会い、正確に症状をお伝えし、適切な治療のための支援が出来ている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した際は、病院関係者との情報交換を行い、早期退院のための支援を行っている。また、日頃から主治医とは連絡を密にして、急変時の対応などにも協力していただけよう関係を築いている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) ターミナルケアの指針と、ホームで出来ること出来ないことなどを明記した承諾書を作成しており、ご家族の希望や必要に応じて、対応が出来る体制を整えている。 (外部評価) ホームとして看取りの経験がある。その時にホームでできることとできないこと、また、家族の協力の必要性などを体得しており、看取りの指針や家族への説明など独自の文章で説明している。ホーム作成の「ターミナルケアの条件」書類は要件を端的に記載しており、看取りへの真摯な取り組みがうかがえる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) ターミナルケアについては、必要に応じて、ご家族や主治医・看護師の立会いの下、今後のケアの方針などについて話し合い、納得した上で支援が出来る体制を整えている。また1例ではあるが、ホームにての看取りの経験がある。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 住み替えの際、ご家族や関係者との話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを最小限度に留める努力をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 一人ひとりにあった言葉かけを行っている。また、排泄や更衣、入浴などの際のプライバシーの配慮や、声掛けのタイミングなどについても、自尊心を尊重した配慮を行っている。また1例ではあるが、一人でトイレが出来ない入居者さんのために、座位保持のための手摺を設置したケースもある。  (外部評価) 利用者への声かけは、その人が落ち着いて生活できるように考えられた言葉で行っている。排泄の声かけは耳で囁くように行っており、爽やかである。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者さんの【自分で出来る・自分で選べる】ことを尊重した、自立支援のケアを心掛けている。職員の立場ではなく、利用者の立場に立ったケアに取り組んでいる。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員は、利用者個々の状態や、希望に合わせた対応を心掛けている。またホームとしては他の利用者の迷惑を掛けない範囲の自由を尊重しており、利用者さん一人ひとりのペースで生活出来るよう支援を行っている。  (外部評価) 生活のリズムを守るために一日の大きな流れは決まっているが、利用者に生活を楽しんでもらうことを優先している。自立支援プロジェクトを活用し、「待つ」という姿勢がその人らしい暮らしを保証している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 更衣の際、季節にあった好きな洋服を選んでもらっている。また、理容・美容については、利用者さんの希望により、訪問美容師で対応している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 自立支援プロジェクトを通し、食材の盛り付けやランチョンマット及び食器の配膳、テーブル拭きなど、それぞれの利用者さんのできることに応じて、職員と一緒に言うようにしている。しかし、声かけしても拒否される場合もあり、出来ない時もある。  (外部評価) 訪問日は誕生日の利用者がおり、地元の魚屋さんが鯛を捌いていた。魚屋の大将は利用者との会話を楽しみながら作業しており、馴染みの関係が見受けられ、また食事を楽しむ取り組みが見受けられた。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 利用者さん一人ひとりの、好みに合わせた支援を行っている。また、お酒や煙草、おやつなどの買い物代行についても、本人の希望に沿った形で支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) リアルタイムで記録している排泄チェック表を見て、トイレの時間誘導やトイレの声かけなどで、おむつ使用や失禁の軽減に努力している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴チェック表で管理しながら、一人ひとりの希望や衛生面の保持などの必要性に応じて、入浴の声かけを行っている。また、入浴を度々拒否される入居者さんに対しても、声かけの工夫やご家族に協力をお願いするなど、入浴をしたいような気持ちになってもらうための工夫を行っている。  (外部評価) 入浴は、タイミングや回数は利用者の希望に沿うように行われている。管理者は、入浴は身体を清潔に保つこと以外に、本人が安らぎを得る場であり、利用者職員が信頼関係を構築する場でもあるとし、ケアのポイントとして重要視している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者さん本人の希望や、生活習慣に即した支援を行っている。ただし、いつもではないが、他の入居者さんの関与により、それが出来ないこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 生きがいや役割を持った、充実した生活を送っていただくために、自立支援プロジェクトを通し、利用者さん一人ひとりの、生活の役割の創出に力を入れている。  (外部評価) 利用者に対しての楽しみごとへの支援は、職員により取り組む深さに違いが見受けられる。その要因の一つは利用者の背景の理解度の違いであると考えられる。生活歴の共有化が求められる場面でもあると思われる。	※	現在取り組み中の「生活歴ノート」の充実と職員間での共有化が求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望や能力に応じて、お金を所持したり、使えたり出来るよう支援している。また、ホームの金庫でお金を預かって、必要な時に必要な金額を、本人に渡すようにしているケースもある。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 外出支援プロジェクトを通し、外出チェック表にて、外出ができていくかどうかの確認を行いながら、本人の希望を尊重した上で、ほぼ毎日、散歩や公園に行ったり、玄関で日向ぼっこをしたり、畑の野菜の水遣りをしたりするなど、日常的に外出が出来る支援を行っている。  (外部評価) 前回評価で外出支援が取り上げられ、その対策に外出支援プロジェクトを立ち上げている。利用者ごとの外出を表にすることで、客観的に外出について把握することが可能となり、現在では短時間でも、玄関から一歩でも、と外出支援に積極的に取り組んでいる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 車椅子の利用者さんが多くいるため、一度に全員でのお出かけは困難であるが、車で何往復もしながら、ドライブを楽しんだりしている。また、ご家族と一緒に外出時には、着替えや薬などの準備を行い、協力している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙は自由に出来るように支援している。自分で電話が掛けられない方も、職員が取り次ぐなどして、必要な支援を行っている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) ご家族や馴染みの方がいつでも自由に訪問していただけるようにしている。また、家族支援プロジェクトを通し、面会の際、居心地良くすごしていただき、また来ようかなという気持ちになれるよう、対応を工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 基本的には、身体拘束をしなくてすむケアに取り組んでいるが、転倒・転落防止のため、やむを得ない場合、ご家族に十分な説明を行い、同意書にサインしていただき、夜間片側ベッド柵2本などの対応をしなければならぬ場合もある。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関・居室ともに、日中は、鍵は掛けていない。  (外部評価) 玄関の施錠は夜間の防犯のためだけで、日中に鍵をかけることはない。リビングの掃き出し窓にも施錠をしないために、職員にリビング担当者を設定し、利用者の事故防止に心がけている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 一人で外出し、行方不明になる可能性も無いとは言えないが、現在は、職員による見守りにて、対応出来ている。また、建物の構造上、利用者さんの様子や所在を確認しやすい構造になっており、安全に配慮出来ている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者さん一人ひとりの状態や希望に応じて、危険を防ぐ取り組みを行っている。また、ヒヤリハット事例は、必ず報告書にまとめ、全員の職員が閲覧し、情報を共有する中で、事故に至るケースを未然に防ぐ努力をしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。また、事故事例も必ず報告書にまとめ、同じような事故を二度と起こさないための取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 急変時や事故発生への対応について周知徹底しているが、実際にはどんな事態が起こるか分からないため、全ての職員が状況に合わせた適切な対応が出来るとは言えない。今年度は、救命救急普通講習(3時間講習)を、町内会の協力を得て行うことが出来、7名の職員が受講出来た。	※	全ての職員が状況に合わせた適切な対応が出来るよう、定期的な訓練の実施を含めて、取り組んでいきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 昨年より、町内自主防災会主催の防災訓練に、ホームも共催させていただいている。近隣の住民の方が、ホームの避難訓練に参加していただくなど、協力体制が築けている。  (外部評価) 町内会の自主防災会が主催している防災訓練を共催し、災害対策に心がけている。また、ホーム独自の避難訓練には地域の人の積極的な参加があり、地域との連携が密にとれている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) ご家族さんへは、自由と安全に関するホームの考えをまとめたものを配布したり、面会時にその件について説明をさせていただいたりして、起こりうるリスクに対して、ご家族さんの理解と協力をお願いしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 朝のバイタルチェック時や、看護部による健康チェックを通して、いつもと違う変化に早く気づき、早期発見・早期治療に結び付けている。必要に応じて、往診や病院受診などの支援も合わせて行っている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬説明書を、いつでも職員さんが確認出来るようにしている。また、医師や薬剤師からの指示を、病院受診・往診申し送りノートにより、周知徹底をしている。また、薬が変わった場合や体調不調時など、様子観察が必要な時期については、個別の記録用紙に記録し、職員全員が把握出来るようにしている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表にて、便秘の有無を確認するようにしている。水分摂取や牛乳を飲んでいただくなど、便秘予防のための工夫をしている。それでも排便が無い場合は、服薬にて対応している。また医師の指示により、浣腸を行うケースもある。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 朝・夕の食事後は、歯磨きやうがい、入歯の手入れをしていただくよう、声かけなどの支援を行っている。また、磨き残しや、自分で入歯の手入れが出来ない方は、必要に応じて介助している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 入居者さん一人ひとりの、一日の食事量は、日誌に記録して、食事が取れているかどうか把握出来るようにしている。また水分摂取が少ない方はケアプランにて、必要な水分摂取が出来るよう支援している。病状によっては、水分摂取の記録が必要なケースもあるが、個別に対応出来ている。 (外部評価) 事前にメニューは決めず、旬の食材やスーパーへの買い物の状況などで献立を決めている。また、利用者の希望や職員の技量にも左右される面があるが、作った料理は記録している。記録を見る限り栄養バランスに問題はなさそうであるが、数値的な裏付けがない。	※	献立や食材が記録されているので、摂取カロリーや栄養バランスを判断することが可能である。専門家の協力を得て、毎食の計算ではなくても、一日の目安的な数字を把握することが求められる。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症対応マニュアルを職員に配布すると共に、職員がいつでも閲覧することが出来るようにしている。また、職員の出勤時や、外出から帰宅した入居者さんの、うがいや手洗いを徹底すると共に、手摺や車椅子の消毒など、感染症予防のための日常的な衛生管理に努めている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 感染症対応マニュアルにも記載しているが、調理器具などの消毒を徹底している。また、安全で新鮮な食材の購入と管理に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 植木や花を、玄関や建物回りに植えている。また、玄関にベンチを設置し、ゆったり、くつろぎながら、日向ぼっこや井戸端会議が出来るようにしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングの椅子やソファなどで、利用者さんが各々好きな場所で、居心地良く過ごせるよう配慮している。またホームの周りに大きな建物が無く、景色を含めた環境が、すごく良いため、利用者さんも落ち着いて生活が出来る。  (外部評価) リビングには風通しや採光面で工夫が見られ、ホームの作りをよく研究していることが理解できる。採光面を優先して大きな窓を採用したが、夏場は暑く対策が必要で、結果、遮熱シートが貼られているが、利用者の居心地を絶えず考えていることの証でもある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者さんの希望や、人間関係などにより、いつも座る場所を決めている。時には席換えも必要なケースもあるが、トラブルにならないように考慮している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室にはエアコン・カーテン・介護用電動ベッド・整理ダンス・洋服ダンスと、大きなものはホームで用意したものを使ってもらっている。その他馴染みの物の持ち込みは、制限していないので、本人やご家族の希望により、自由に持ち込んでいただいている。  (外部評価) 利用者により、ホームが用意したもの、自分が持ってきたものと様々な部屋があるが、どの部屋も温かみのある設えである。家族の写真や手作りの作品などで個性豊かなインテリアとなっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 適時、必要に応じて換気を行っている。また空調など温度管理をまめに行い、適温で過ごすことができるよう配慮している。また入浴時も、温風器を浴室・脱衣所ともに設置しており、温度差の変化が少なくなるようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーの環境で、快適かつ安全に生活が出来るように環境を整えている。また、パーキンソン疾患の方のために、居室入り口付近の床に、テープを張るなど、個別のケースにも対応している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 出来るだけ環境を変えないですむ工夫をしているが、やむを得ず居室の模様替えなどを行った時は、転倒などの事故を未然に防ぐために、こまめに見守りや安全のための声かけを行うなど、工夫して対応している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 畑に野菜を植えて、水やりや収穫などを楽しめるようにしている。また、ベランダの物干しに洗濯物を干す時も、自分で出来る利用者さんには、自分で干していただくようにしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらい 評価) 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんど掴んでいない	基本的に、生活の主体者である利用者さんの、希望や意向に沿った支援を心掛けています。また、ケア・カンファレンスなどを通し、職員全員で意見を出し合い、職員の対応などケアの方針の取り決めや、ケアプランの見直しを行っている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	業務に追われて余裕の無い時が多いことも事実だが、日中は、散歩や花の水やり・喫煙見守りの時など、また夕食後から就寝時間までの間や夜間トイレに出て来られた時など、ゆっくりとお話出来る時間もある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ホームでは、他人に迷惑を掛けない範囲は、自由にさせていただくということが方針であるため、各々が自分のペースで生活されている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の声かけや対応により、拒否されたり、不機嫌になったりする時もある。また他の利用者さんとのトラブルにより、険悪な雰囲気になったりすることもあるが、普段は職員による自立支援のケアにより、生き活きと生活されている。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	利用者さんから特に希望は聞かないが、もしあったとしても現在の体制では対応が困難である。職員の体勢だけの問題ではなく、車の免許を持っていない職員さんが多いことや、単独のグループホームであるため社用車も1台しかないことも大きな要因である。しかし、ご家族が連れて行っていただける場合は、準備など必要な支援を行っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	協力病院が6ヶ所あり、それぞれ主治医が往診や受診などの対応をしていたり、病院受診に際しても、早期に対応するため、不安なく過ごしている。また、看護部による健康チェックを実施しており、いつもと違う変化を見落とさないよう対応しており、病気の早期発見・早期治療に取り組んでいる。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ホームとして、出来るだけの支援と柔軟な対応を行っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ご家族さんには、毎月家族通信などを通して、利用者さんのホームでの様子や出来事など、積極的に情報を提供している。また苦情などにも、素早く誠意を持って対応しているため、信頼関係は築けていると思っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	地域との交流を積極的に行っている。町内会や子供会との合同行事、また地元の中学校との交流もある。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議などの場を通して、お互いのニーズにあった交流を行うことが出来ており、地域の方の理解も徐々に広がってきている。
98	職員は、生き生きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員さんが気持ちよく仕事ができる環境の構築に力を入れており、仕事なので楽しいことばかりではないが、お互いに協力し合いながら、仕事が出来ていると思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんの性格にもよるが、ここでの生活にほぼ満足していただけていると思う。また、今まで一人で気楽に生活していた方々が、少人数ながら集団で生活するのだから、自分の思うとおりに行かないことも多々あると思う。しかし、客観的に見て、ここでの暮らしは快適であり、何不自由ない生活が出来ると思える。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	確認することは難しいが、面会時の会話や表情などで、概ね満足していただけていると思う。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

◎良質な介護を提供し続けることを会社の目的としている。◎利用者さん・ご家族さん及び職員さんにとって、このホームが最良の場所となるよう、会社として全力で取り組んでいる。◎ご家族さんには、毎月欠かさず【家族通信ほのぼの】を送付し、利用者さんのホームでの暮らしぶりを、ありのままに報告させていただいている。また、【優輝新聞虹の架け橋】を通して、会社での取り組みや職員の人柄や考えが分るものを情報提供し、ケアの品質保証に力を入れている。◎【地域コミュニティー新聞】や【まもるくんの家の登録】など、地域交流にも力を入れており、地域のために貢献出来るホームを目指している。◎利用者さんの【自分で出来る・自分で選べる】という自立支援のケアに取り組んでいる。◎備品なども、利用者さんが快適に生活していけるよう気持ちを込めて購入している。◎作業療法士による個別のリハビリや園芸療法など、外部の有料サービスも積極的に取り入れ、利用者さんの心と身体の健康の向上に力を入れている。◎職員さんの各種研修への参加についても、研修費を会社負担とするなど、資質向上に役立つものに積極的に協力している。◎【まごころ文庫】を事務所に設置し、認知症やグループホームのケアについて、自己研鑽出来るよう、役に立つ書籍などを会社で購入し、職員さんに無償で貸し出ししている。◎問題が起こった際、素早い対応が出来るよう心掛けている。すぐに改善できることは、すぐ取り組むようにしている。◎職員さんの評価を適切に行うため、半年に1回の自己評価を元に、公平公正な評価となるよう体制を整えている。◎何かあった時は、みんなが納得できるよう話し合いを行っている。◎グループホームを取り巻く環境についての情報などを、いち早く職員さんに届ける努力をしている。◎職員さんの希望に応じた勤務体制を取っている(希望休日の確保など)。◎自己満足にならないように管理者自ら、県のグループホーム連絡協議会に所属し、愛媛県のグループホーム全体のお役に立てる活動を行っている。◎災害時の対策として避難訓練や防火訓練、また緊急時の対応として救急救命訓練などに力を入れると共に、警備保障会社との契約や、非常階段の設置など周辺環境の整備にも積極的に取り組んでいる。◎職員さんの自主性や前向きな気持ちを大切にしている。スピン・オフ・プロジェクトなどを通し、職員さんもホームの運営に参加できる体制を整えており、人材育成にも力を入れている。◎情報開示にも力を入れており、ホームページやブログなどを通し、積極的にホームの良さを理解していただく活動を行っている。◎利用者さんの健康管理に力を入れており、いつもと違う変化を見逃さず、病気の早期発見・早期治療に積極取り組んでいる。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム優輝

(ユニット名) 2F ユニット

記入者(管理者)  
氏名 上岩 茂

評価完了日 平成 19 年 10 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 経営理念に【地域に貢献出来る会社を目指す】を明記し、地域から何かをしてもらうだけでなく、私達も地域のために貢献出来ることを実施していく方針を立てている。地域貢献の一環として【まもるくんの家】にも登録している。また、町内会や子供会、また地元中学校との交流も行っている。  (外部評価) ホーム開設時はまだ地域密着型サービスは開始されていなかったが、管理者にはホームは地域と共にという理念があり、当初から地域生活を意識した理念が作られている。また、地域貢献という前向きな考えも理念に取り入れ、先駆的な取り組みをしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 優輝の運営理念は、会社側が作ったものでなく、職員さんに、【どんなグループホームにしていきたいと思っていますか】というアンケートを実施し、職員さんの意見や思いを集約したものになっている。また日々、運営理念の実践に向けて、ケアの質の向上に取り組んでいる。  (外部評価) 管理者の熱い思いは職員に伝わっており、理念を共有していることが分かる。利用者の自立支援を「自分でできる、自分で選べる」と具体化しており、ケアの基本を明確にしている。具体化された理念は職員のケア実践にとっても有用である。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ご家族や地域の代表者などが出席している運営推進会議において、ホームの理念や方針などを理解していただけるよう報告し、お伝えしている。また、日々の活動についても、ご家族や地域の代表の方などに、理解していただけるよう取り組んでいる。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 目の前の公園へのお出かけや近隣の散歩を日常的に行っており、地域の方とのふれあいを大切にしている。また、毎年、近隣の住民の方と一緒に、防災訓練も行っている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 毎年、町内盆踊り大会に参加させていただいている。今年には町内会からの要請で、焼き鳥の店も出店させていただいた。また町内子供会の子供達と優輝の入居者さんと一緒に、【お菓子作り体験教室】も開催した。  (外部評価) ホーム建設中に自治会から交流についてのアプローチがあり、町内活動はもちろんのこと、地区の小学生との料理教室など積極的に交流を行っている。月々の多彩な行事のため、地域との窓口を職員が担っていることで、利用者が受け身になっている感がある。	※	ホーム開設後3年、管理者の努力で地域とも馴染んでいる。今後は利用者も地域住民のひとりとして地域とゆっくり付き合う関係に移行すべき時期であると考えられ、利用者が地域との窓口になるような取組みを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 目の前の公園で、不審者の遭遇や事故による怪我が発生した場合など、地域の住民の方がいつでもホームに駆け込んでいただけるよう、【まもるくんの家】に登録している。また、町内の方に、その事を地域コミュニティ新聞にて、周知している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価及び外部評価の結果、改善が必要な問題について、職員参加型の問題解決プロジェクトを立ち上げ、日々改善に向けて努力している。プロジェクトの結果、すでに改善が行えた問題もある。  (外部評価) 評価内容について問題解決プロジェクトとして取り組み、質の向上に努めている。また、問題を解決するためには職員の積極的な関わりが必要であると、ボトムアップに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) これまでに9回運営推進会議を開催しており、ホームの活動や方針について報告させていただいていると共に、ホームで抱えている各種問題点について、参加者の方にも一緒に考えていただく、問題討議型の会議の運営を行っている。その際、参加者から出た意見やアドバイスを、サービス向上のために活かしている。  (外部評価) 運営推進会議を積極的に開催しており、地域へ理解を求める場としても有効に活用している。また、利用者へのサービス向上に努めることも地域の力が必要であるということを議題にしており、アドバイスを求める場として会議を有用に活かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市の開催している講習会や説明会には出来るだけ参加するようにしている。また、松山市高齢福祉課職員の【グループホーム一日体験研修】の受け入れを実施した。  (外部評価) 管理者がグループホーム連絡協議会の幹事として地域のホーム全体の質の向上に努めており、市担当者とも話す機会が多い。また、市職員の体験研修を受け入れるなど、共にサービスの質の向上に取り組む姿勢がみられる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員さんにも社内研修や社外研修の参加にて、権利擁護の勉強が出来るよう取り組んでいる。また、愛媛県社会福祉士会の成年後見制度担当者との交流を通し、協力・連携体制を整えている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員対象に【情報通信あゆみ】を発行しており、広く情報を共有できるよう努力している。また、高齢者虐待防止法についても、ホーム独自の資料を作成し、職員さんに配布し、虐待を行わないケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前のご家族との契約時に、ホームの方針や理念、取り組んでいる活動や契約の内容などについて、十分に説明を行っている。また、ご家族への説明が必要な事柄についても、事前に十分な説明を行うと共に、不明な点や質問等にも、お互いが納得できるよう努力している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置し、いつでも気軽に意見を出せるようにしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 入居者さんの健康状態や生活の様子などは、面会や行事への参加時などに報告させていただいている。特に病院受診の事については、その都度事前のお知らせや結果の報告を行っている。また【家族通信ほのぼの】にて入居者さんの様子を、【優輝新聞虹の架け橋】にて会社の取り組みについて毎月ご家族へ報告している。 <hr/> (外部評価) 家族の訪問時以外にも、ホーム便りを発行して利用者の暮らしぶりを伝えている。ホーム便りは管理者が開設以来定期的に発行している。構成や内容なども充実しており、家族も楽しみにしている。管理者の家族との付き合いを大切にしている思いが伝わる情報誌である。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議にて、ご家族さんの意見等を言っただき、改善や取り組みが出来るよう、努力している。また、苦情が発生した場合は、臨時のカンファレンスを開催したり、申し送りノートに記載して再発防止に努めている。 <hr/> (外部評価) 管理者には専門職として傾聴の姿勢があり、家族などの意見を丁寧に引き出すよう心がけている。職員間で共有するための連絡帳には、時間をかけて傾聴していると思われる内容が数多く記載されている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員さんと管理者と一緒に取り組む、問題解決プロジェクトなどや毎月のケアカンファレンスなどを通し、職員さんから気軽に意見が出せるよう配慮している。また出た意見や提案に対し、早期実現に向けて努力している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 柔軟な対応に向けた勤務調整を行えている。緊急時や利用者さんの状態の変化にも対応できている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 常に職員さんが働きやすい環境を構築するため、会社としても全力で取り組んでいるが、家庭の事情や業務不適などでやむを得ず退職した職員さんがいる。	※	今までは仕方の無いことと思っていたが、職員の退職等に関わる入居者さんへのダメージを最小限度に押さえる方法について検討していきたい。
			(外部評価) 開設後は職員間でも馴染みの関係が構築できておらず、想定していない事柄で職員の離職が続いた時期があった。ホームも3年目を迎え、利用者や職員の馴染みの関係にも深さが見られる時期であるため、今後は職員の離職に対して利用者への影響は大きくなると考えられる。	※	福祉職員の仕事への定着率アップに対する対策は、一ホームの問題というだけでなく、グループホーム連絡協議会や行政等と共に解決策を模索する必要がある問題ではないだろうか。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新入社員研修のプログラムを、プロジェクトの成果として作成しており、約3ヶ月を掛けて新人研修を行っている。また、社内研修を月1回のペースで開催しており、職員さんの出席率も高い。また、社外からの研修案内を職員さんに開示して、希望により研修に参加できるよう配慮している。		
			(外部評価) 新人職員に関しては、管理者や職員が効率よく教育できるようにプログラム化されている。職員の経験に応じた研修会等への参加を促している。また、毎月の社内研修では職員が講師になることでより深く学ぶ体験など、職員のトレーニングが積極的に行われている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者は、愛媛県グループホーム連絡協議会の幹事をしており、相互研修などの機会を通し、同業他社との交流に力を入れている。また、松山市社会福祉協議会主催の勉強会に職員が出席して、地域の同業者との交流を行っている。 (外部評価) 管理者の人脈から、ホームの相互研修や同業者との交流が行われている。また、市や社協での勉強会への参加は、ネットワークづくりの一環でもあるとの認識から力を入れている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 会社として、職員さんが気持ちよく働ける環境の構築に力を入れており、待遇面の改善や懇親会などの開催も行っているが、職員のストレス軽減に向けた努力は十分ではないと思う。	※	職員さんのストレス軽減のための対策を考えていきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 半年に1回、自分の仕事についてのたな卸しをしてくださいと、自己評価の機会を作って、自分の仕事について評価できるシステムを作っている。その際、給与面などの待遇についても、自分の考えを会社に伝える手段を設け、会社が適切な評価が出来るよう取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前に利用者本人から、こういう生活をしていきたいなどの希望・要望や、困っていること、不安な点に思っていることなどについて、話を伺い、受け止めるようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前にご家族さんからも、こういう生活をさせて欲しいなどの希望・要望や、困っていること、不安な点に思っていることなどについて、話を伺い、受け止めるようにしている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に利用者本人とご家族が必要としていることを見極め、支援していくよう努力している。また、リハビリなど他のサービス利用についても、相談に乗り、必要なサービスが受けられるよう努力している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 利用者本人が安心して納得した上で、サービスが受けられるよう、本人の意欲や言葉などから、状態を確かめながら、徐々にサービスを利用出来るように配慮している。また、問題点があれば、ご家族に相談しながら、解決に向けて適切な対応を心掛けている。 <hr/> (外部評価) 開設後はホームの運営を軌道に乗せるために、利用者にもホームの生活に馴染んでもらうことが重要課題であったが、3年目を迎えホームの運営も落ち着いてきている。	※	ホームではデイサービスやショートステイを行う予定はないため、利用者と一緒に馴染むためには利用予定者に遊びに来てもらうか、職員が訪問するなどが考えられる。どちらも地域の力が必要であり、地域とうまく付き合いを保っているホームであるために、先駆的な取組みを期待したい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 自立支援プロジェクトにより、利用者本人さんの【自分で出来る・自分で選べる】を基本に、職員と共に生活における役割の行動を行うことで、自立支援の取り組みを行っている。また、入居者さんの喜びを私達の喜びとして共感できることを理念とし、毎日の生活で喜怒哀楽を共にしている。 <hr/> (外部評価) 利用者への「自立支援プロジェクト」という取り組みでアセスメントが十分になされており、職員間でも徹底して「待つ」という姿勢がとられている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族支援プロジェクトを通し、ご家族さんから信頼されるための取り組みを行っている。また、ご家族さんへ、利用者さんのホームでの様子やホームの取り組みなどの情報提供を行い、信頼関係を深めて、協力していただけるよう努力している。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族の問題に立ち入ることは出来ないが、ご家族に利用者さんの日々の様子などの情報提供を通し、より良い家族関係が築いていけるよう支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行きつけの病院や美容院などを、継続して利用出来るよう努力している。また、今までに培ってきた人間関係を継続できるよう支援している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者さん同士の関係を把握して、共に出来ることや助け合いながら出来ることを支援し、孤立しないよう配慮している。また、利用者さんの希望により、仲良しの方との一緒の入浴や散歩などにも取り組んでいる。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 入院などでやむを得ず退所になった場合も、病院へお見舞いに行ったり、ご家族さんにお会いする機会があった場合は、近況を話し合ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの思いや希望、意向などの把握に努めている。希望に添えないなど実現が困難な場合には、ケアカンファレンス等で、本人の立場に立って考え、話し合いを行い、利用者本人にとって、一番いい方法を導き出すよう努力している。 (外部評価) 管理者は、利用者の生活歴を知ることは言葉の背景や思いが分かることであると考え、利用者ごとに専用のノートを用意し、生活歴を記載している。しかし、取り組みは始まったばかりで記載内容が十分とは言えない。	※	記録ノートの取り組みに対して職員間に温度差があるように感じる。職員全員で書き方に取り決めをするなどして、徹底して取り組むことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に利用者本人やご家族から聞いたり、入居後も本人やご家族との会話の中で、理解し把握するように努力している。また、他の職員さんにも知っておいて欲しいことは、【個人ノート】に記録し、情報の蓄積が出来る体制を整えている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 朝の健康観察は看護部が行っており、いつもと違う様子は無いかの早期把握に努めている。また、その日の健康状態・活動の様子を見て、出来ること出来ないことを把握し、職員間で情報交換や申し送りを行い、適切な支援が出来るよう努力している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画作成時には、利用者本人やご家族から、希望や意見を聞き、適切な介護計画の作成に努めている。また、ケアカンファレンスを通し、職員間でも情報交換を行い、意見を集約した介護計画になるようにしている。  (外部評価) 介護計画は本人や家族と相談の上、職員全員で話し合っ作成している。利用者には担当職員制を取っており、担当者が計画作成にも主として携わっている。職員を育てるという意義もあり、チームでやることを念頭に置きながら関係者との調整をフォローしつつ、介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 毎月のカンファレンスでの話し合いの内容を元に、毎月介護計画の微調整を行っている。それ以外にも利用者本人の体調や行動に大きな変化が起こった際は、適時介護計画の見直しを行っている。その際、利用者本人やご家族の希望及び必要な関係者とも連絡を取り合い、適切な介護計画になるよう努力している。  (外部評価) 介護計画の見直しは二段階になっている。大きな区切りとして介護認定時を想定しており、毎月のケア会議は調整時としている。介護計画が日々の生活の中で確認できるように、援助計画チェック表で記録している。この記録を毎月の調整事項として取り上げており、現状に即した取り組みがなされている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践などについては、経過総合記録に記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しなどに活用している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 多機能施設でないため、多機能性を活かした支援は行えないが、外部の関係機関等の協力により、個別リハビリや園芸療法など外部サービスを利用出来るよう柔軟な支援を行っている。  (外部評価) 管理者が専任であり、利用者の要望に積極的に応えている。冠婚葬祭への参加や不定期な検診、車の送迎など臨機応変に対応している。外部の諸機関へも積極的に対応を呼びかけるなど、柔軟な対応を心がけている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 防災訓練や救急救命訓練などを、地域の消防署や町内会などの協力を得ながら取り組んでいる。また運営推進会議には地域及び地区の民生委員さんに出席していただき、情報交換などを行う中で、協力体制を整えている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 作業療法士による個別リハビリや園芸療法など、他のサービスも利用出来るよう支援している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議にも出席していただき、情報交換など協力体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者本人及びご家族さんの希望を大切に、納得されて適切な医療が受けられるよう支援している。ご家族による病院受診時も、ホームでの様子分かるよう情報提供している。 ----- (外部評価) 利用者ごとにかかりつけ医は異なっており、それぞれの医療機関と管理者や看護師が密に連絡を取っている。また、往診が必要な利用者には、ホームの協力医療機関の紹介も行っている。受診支援としてデータ化した利用者の状態を医療機関へ事前に連絡しており、医師が適切な判断を行うための協力もしている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) かかりつけの病院を通して、専門の医師の協力を得られるよう体制を整えている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護部体制をとっており、正看護師が入居者全員の健康管理を行い、病気の早期発見・早期治療に繋げている。またかかりつけの病院の医師の往診時には、必ず職員が立会い、正確に症状をお伝えし、適切な治療のための支援が出来ている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した際は、病院関係者との情報交換を行い、早期退院のための支援を行っている。また、日頃から主治医とは連絡を密にして、急変時の対応などにも協力していただけよう関係を築いている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) ターミナルケアの指針と、ホームで出来ること出来ないことなどを明記した承諾書を作成しており、ご家族の希望や必要に応じて、対応が出来る体制を整えている。 ----- (外部評価) ホームとして看取りの経験がある。その時にホームでできることとできないこと、また、家族の協力の必要性などを体得しており、看取りの指針や家族への説明など独自の文章で説明している。ホーム作成の「ターミナルケアの条件」書類は要件を端的に記載しており、看取りへの真摯な取り組みがうかがえる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) ターミナルケアについては、必要に応じて、ご家族や主治医・看護師の立会いの下、今後のケアの方針などについて話し合い、納得した上で支援が出来る体制を整えている。また1例ではあるが、ホームにての看取りの経験がある。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 住み替えの際、ご家族や関係者との話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを最小限度に留める努力をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	(自己評価) 一人ひとりにあった言葉かけを行っている。また、排泄や更衣、入浴などの際のプライバシーの配慮や、声掛けのタイミングなどについても、自尊心を尊重した配慮を行っている。  (外部評価) 利用者への声かけは、その人が落ち着いて生活できるように考えられた言葉で行っている。排泄の声かけは耳元で囁くように行っており、爽やかである。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者さんの【自分で出来る・自分で選べる】ことを尊重した、自立支援のケアを心掛けている。職員の立場ではなく、利用者の立場に立ったケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員は、利用者個々の状態や、希望に合わせた対応を心掛けている。またホームとしては他の利用者の迷惑を掛けない範囲の自由を尊重しており、利用者さん一人ひとりのペースで、自由に生活出来るよう支援を行っている。  (外部評価) 生活のリズムを守るために一日の大きな流れは決まっているが、利用者に生活を楽しんでもらうことを優先している。自立支援プロジェクトを活用し、「待つ」という姿勢がその人らしい暮らしを保証している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 更衣の際、季節にあった好きな洋服を選んでもらっている。また、理容・美容については、お一人だけ行きつけの美容院に行かれています方がおり、送迎などの支援を行っている。他の利用者さんは、本人の希望により、訪問美容師で対応している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 自立支援プロジェクトを通し、食材の盛り付けやランチョンマット及び食器の配膳、テーブル拭きなど、それぞれの利用者さんのできることに応じて、職員と一緒に行うようにしている。しかし、声かけしても拒否される場合もあり、出来ない時もある。  (外部評価) 訪問日は誕生日の利用者がおり、地元の魚屋さんが鯛を捌いていた。魚屋の大将は利用者との会話を楽しみながら作業しており、馴染みの関係が見受けられ、また食事を楽しむ取り組みが見受けられた。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 利用者さん一人ひとりの、好みに合わせた支援を行っている。また、お酒やおやつなどの買い物代行についても、本人の希望に沿った形で支援している。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) リアルタイムで記録している排泄チェック表を見て、トイレの時間誘導やトイレの声かけなどで、おむつ使用や失禁の軽減に努力している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴チェック表で管理しながら、一人ひとりの希望や衛生面の保持などの必要性に応じて、入浴の声かけを行っている。また、入浴を度々拒否される入居者さんに対しても、声かけの工夫やご家族に協力をお願いするなど、入浴をしたいような気持ちになってもらうための工夫を行っている。 (外部評価) 入浴は、タイミングや回数は利用者の希望に沿うように行われている。管理者は、入浴は身体を清潔に保つこと以外に、本人が安らぎを得る場であり、利用者として信頼関係を構築する場でもあるとし、ケアのポイントとして重要視している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者さん本人の希望や、生活習慣に即した支援を行っている。ただし、いつもではないが、他の入居者さんの関与により、それが出来ないこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 生きがいや役割を持った、充実した生活を送っていただくために、自立支援プロジェクトを通し、利用者さん一人ひとりの、生活の役割の創出に力を入れている。 (外部評価) 利用者に対しての楽しみごとへの支援は、職員により取り組む深さに違いが見受けられる。その要因の一つは利用者の背景の理解度の違いであると考えられる。生活歴の共有化が求められる場面でもあると思われる。	※	現在取り組み中の「生活歴ノート」の充実と職員間での共有化が求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望や能力に応じて、お金を所持したり、使えたり出来るよう支援している。また、ホームの金庫でお金を預かって、必要な時に必要な金額を、本人に渡すようにしているケースもある。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 外出支援プロジェクトを通し、外出チェック表にて、外出ができていくかどうかの確認を行いながら、本人の希望を尊重した上で、ほぼ毎日、散歩や公園に行ったり、玄関で日向ぼっこをしたりするなど、日常的に外出が出来る支援を行っている。  (外部評価) 前回評価で外出支援が取り上げられ、その対策に外出支援プロジェクトを立ち上げている。利用者ごとの外出を表にすることで、客観的に外出について把握することが可能となり、現在では短時間でも、玄関から一歩でも、と外出支援に積極的に取り組んでいる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 外出には車椅子が必要な利用者さんが多くいるため、一度に全員でのお出かけは困難であるが、車で何往復もしながら、ドライブを楽しんだりしている。また、ご家族と一緒に外出時には、着替えや薬などの準備を行い、協力している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙は自由に出来るように支援している。自分で電話が掛けられない方も、職員が取り次ぐなどして、必要な支援を行っている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) ご家族や馴染みの方がいつでも自由に訪問していただけるようにしている。また、家族支援プロジェクトを通し、面会の際、居心地良くすごしていただき、また来ようかなという気持ちになれるよう、対応を工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 基本的には、身体拘束をしなくてすむケアに取り組んでいる。また、職員みんなが閲覧出来る場所に、具体的な身体拘束禁止事例を書いた用紙を置いている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関・居室ともに、日中は、鍵は掛けていない。また、リビングに職員が誰もいなくなることを防ぐため、リビング担当の名札を下げて、リビングを離れる時は、他の職員に声かけし、変わってもらいなどの方法で、必ず職員一人はリビングにいて、事故や行方不明者などが出ないよう努力している。  (外部評価) 玄関の施錠は夜間の防犯のためだけで、日中に鍵をかけることはない。リビングの掃き出し窓にも施錠をしないために、職員にリビング担当者を設定し、利用者の事故防止に心がけている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 一人で外出し、行方不明になる可能性も無いとは言えないが、現在は、リビング担当名札を利用している職員による見守りにて、対応出来ている。また、建物の構造上、利用者さんの様子や所在を確認しやすい構造になっており、安全に配慮出来ている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者さん一人ひとりの状態や希望に応じて、危険を防ぐ取り組みを行っている。また、ヒヤリハット事例は、必ず報告書にまとめ、他のユニットも含めて、全員の職員が閲覧し、情報を共有する中で、事故に至るケースを未然に防ぐ努力をしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。また、事故事例も必ず報告書にまとめ、同じような事故を二度と起こさないための取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 急変時や事故発生への対応について周知徹底しているが、実際にはどんな事態が起こるか分からないため、全ての職員が状況に合わせた適切な対応が出来るとは言えない。今年度は、救命救急普通講習(3時間講習)を、町内会の協力を得て行うことが出来、ホーム全体で7名の職員が受講出来た。	※	全ての職員が状況に合わせた適切な対応が出来るよう、定期的な訓練の実施を含めて、取り組んでいきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 昨年より、町内自主防災会主催の防災訓練に、ホームも共催させていただいている。近隣の住民の方が、ホームの避難訓練に参加していただくなど、協力体制が築けている。  (外部評価) 町内会の自主防災会が主催している防災訓練を共催し、災害対策に心がけている。また、ホーム独自の避難訓練には地域の人の積極的な参加があり、地域との連携が密にとれている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) ご家族さんへは、自由と安全に関するホームの考えをまとめたものを配布したり、面会時にその件について説明をさせていただいたりして、起こりうるリスクに対して、ご家族さんの理解と協力をお願いしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 朝のバイタルチェック時や、看護部による健康チェックを通して、いつもと違う変化に早く気づき、早期発見・早期治療に結び付けている。必要に応じて、往診や病院受診などの支援も合わせて行っている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬説明書を、いつでも職員さんが確認出来るようにしている。また、医師や薬剤師からの指示を、病院受診・往診申し送りノートにより、周知徹底をしている。また、薬が変わった場合や体調不調時など、様子観察が必要な時期については、個別の記録用紙に記録し、職員全員が把握出来るようにしている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表にて、便秘の有無を確認するようにしている。水分摂取や牛乳を飲んでいただくなど、便秘予防のための工夫をしている。それでも排便が無い場合は、服薬にて対応している。また医師の指示により、浣腸を行うケースもある。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 朝・夕の食事後は、歯磨きやうがい、入歯の手入れをしていただくよう、声かけなどの支援を行っている。また、磨き残しや、自分で入歯の手入れが出来ない方は、必要に応じて介助している。介護困難な方が1名いらっしゃり、職員では口腔ケアをさせてもらえないので、訪問の歯医者をお願いして、その方だけ週1回の訪問による口腔ケアを行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 入居者さん一人ひとりの、一日の食事量は、日誌に記録して、食事が取れているかどうか把握出来るようにしている。また水分摂取が少ない方はケアプランにて、必要な水分摂取が出来るよう支援している。病状によっては、水分摂取の記録が必要なケースもあるが、個別に対応出来ている。 <hr/> (外部評価) 事前にメニューは決めず、旬の食材やスーパーへの買い物状況などで献立を決めている。また、利用者の希望や職員の技量にも左右される面があるが、作った料理は記録している。記録を見る限り栄養バランスに問題はなさそうであるが、数値的な裏付けがない。	※	献立や食材が記録されているので、摂取カロリーや栄養バランスを判断することが可能である。専門家の協力を得て、毎食の計算ではなくても、一日の目安的な数字を把握することが求められる。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症対応マニュアルを職員に配布すると共に、職員がいつでも閲覧することが出来るようにしている。また、職員の出勤時や、外出から帰宅した入居者さんの、うがいや手洗いを徹底すると共に、手摺や車椅子の消毒など、感染症予防のための日常的な衛生管理に努めている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 感染症対応マニュアルにも記載しているが、調理器具などの消毒を徹底している。また、安全で新鮮な食材の購入と管理に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 植木や花を、玄関や建物回りに植えている。また、玄関にベンチを設置し、ゆったり、くつろぎながら、日向ぼっこや井戸端会議が出来るようにしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングの椅子やソファなどで、利用者さんが各々好きな場所で、居心地良く過ごせるよう配慮している。またホームの周りに大きな建物が無く、特に2Fは見晴らしも良く、景色を含めた環境が、すごく良いため、利用者さんも落ち着いて生活が出来ている。  (外部評価) リビングには風通しや採光面で工夫が見られ、ホームの作りをよく研究していることが理解できる。採光面を優先して大きな窓を採用したが、夏場は暑く対策が必要で、結果、遮熱シートが貼られているが、利用者の居心地を絶えず考えていることの証でもある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者さんの希望や、人間関係などにより、いつも座る場所を決めている。時には席換えも必要なケースもあるが、トラブルにならないように考慮している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室にはエアコン・カーテン・介護用電動ベッド・整理ダンス・洋服ダンスと、大きなものはホームで用意したものを使ってもらっている。その他馴染みの物の持ち込みは、制限していないので、本人やご家族の希望により、自由に持ち込んでいただいている。  (外部評価) 利用者により、ホームが用意したもの、自分が持ってきたものと様々な部屋があるが、どの部屋も温かみのある設えである。家族の写真や手作りの作品などで個性豊かなインテリアとなっている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 適時、必要に応じて換気を行っている。また空調など温度管理をまめに行い、適温で過ごすことができるよう配慮している。また入浴時も、温風器を浴室・脱衣所ともに設置しており、温度差の変化が少なくなるようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーの環境で、快適かつ安全に生活が出来るように環境を整えている。また、トイレや浴室、廊下などに手摺を設置して、安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 出来るだけ環境を変えないですむ工夫をしているが、やむを得ず居室の模様替えなどを行った時は、転倒などの事故を未然に防ぐために、こまめに見守りや安全のための声かけを行うなど、工夫して対応している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 畑に野菜を植えて、水やりや収穫などを楽しめるようにしている。また、ベランダの物干しに洗濯物を干す時も、自分で出来る利用者さんには、自分で干していただくようにしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらい 評価) 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんど掴んでいない	基本的に、生活の主体者である利用者さんの、希望や意向に沿った支援を心掛けています。また、ケア・カンファレンスなどを通し、職員全員で意見を出し合い、職員の対応などケアの方針の取り決めや、ケアプランの見直しを行っている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	業務に追われて余裕の無い時が多いことも事実だが、日中は、散歩時に、また夕食後から就寝時間までの間や、夜間トイレに出て来られた時など、ゆっくりにお話が出来る時間もある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ホームでは、他人に迷惑を掛けない範囲は、自由にさせていただくということが方針であるため、各々が自分のペースで自由に生活されている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の声かけや対応により、拒否されたり、不機嫌になったりする時もある。また他の利用者さんとのトラブルにより、険悪な雰囲気になったりすることもあるが、普段は職員による自立支援のケアにより、生き活きと生活されている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	買い物希望の利用者さんを、一緒に行きたい利用者さんも誘って、時々近くのスーパーに買い物に行っている。その他、行きつけの美容院へパーマを掛けに行く利用者さんもあり、予約取りや送迎の支援を行っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	協力病院が6ヶ所あり、それぞれ主治医が往診や受診などの対応をさせていただいており、病院受診に際しても、早期に対応するため、不安なく過ごしている。また、看護部による健康チェックを実施しており、いつもと違う変化を見落とさないよう対応しており、病気の早期発見・早期治療に取り組んでいる。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ホームとして、出来るだけの支援と柔軟な対応を行っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ご家族さんには、毎月家族通信などを通して、利用者さんのホームでの様子や出来事など、積極的に情報を提供している。また苦情などにも、素早く誠意を持って対応しているため、信頼関係は築けていると思っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	地域との交流を積極的に行っている。町内会や子供会との合同行事、また地元の中学校との交流もある。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議などの場を通して、お互いのニーズにあった交流を行うことが出来ており、地域の方の理解も徐々に広がってきている。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員さんが気持ちよく仕事ができる環境の構築に力を入れており、仕事なので楽しいことばかりではないが、お互いに協力し合いながら、仕事が出来ていると思う。また最近、それぞれのご家庭の事情で、3名の職員さんが同じ時期に退職になり、新しい職員さんと入れ替わったが、徐々に落ち着いて来
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんの性格にもよるが、ここでの生活にほぼ満足していただけていると思う。また、今まで一人で気楽に生活していた方々が、少人数ながら集団で生活するのだから、自分の思うとおりに行かないことも多々あると思う。しかし、客観的に見て、ここでの暮らしは快適であり、何不自由ない生
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	確認することは難しいが、面会時の会話や表情などで、概ね満足していただけていると思う。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

◎良質な介護を提供し続けることを会社の目的としている。◎利用者さん・ご家族さん及び職員さんにとって、このホームが最良の場所となるよう、会社として全力で取り組んでいる。◎ご家族さんには、毎月欠かさず【家族通信ほのぼの】を送付し、利用者さんのホームでの暮らしぶりを、ありのままに報告させていただいている。また、【優輝新聞虹の架け橋】を通して、会社での取り組みや職員の人柄や考えが分るものを情報提供し、ケアの品質保証に力を入れている。◎【地域コミュニティー新聞】や【まもるくんの家の登録】など、地域交流にも力を入れており、地域のために貢献出来るホームを目指している。◎利用者さんの【自分で出来る・自分で選べる】という自立支援のケアに取り組んでいる。◎備品なども、利用者さんが快適に生活していけるよう気持ちを込めて購入している。◎作業療法士による個別のリハビリや園芸療法など、外部の有料サービスも積極的に取り入れ、利用者さんの心と身体の健康の向上に力を入れている。◎職員さんの各種研修への参加についても、研修費を会社負担とするなど、資質向上に役立つものに積極的に協力している。◎【まごころ文庫】を事務所に設置し、認知症やグループホームのケアについて、自己研鑽出来るよう、役に立つ書籍などを会社で購入し、職員さんに無償で貸し出ししている。◎問題が起こった際、素早い対応が出来るよう心掛けている。すぐに改善できることは、すぐ取り組むようにしている。◎職員さんの評価を適切に行うため、半年に1回の自己評価を元に、公平公正な評価となるよう体制を整えている。◎何かあった時は、みんなが納得できるよう話し合いを行っている。◎グループホームを取り巻く環境についての情報などを、いち早く職員さんに届ける努力をしている。◎職員さんの希望に応じた勤務体制を取っている(希望休日の確保など)。◎自己満足にならないように管理者自ら、県のグループホーム連絡協議会に所属し、愛媛県のグループホーム全体のお役に立てる活動を行っている。◎災害時の対策として避難訓練や防火訓練、また緊急時の対応として救急救命訓練などに力を入れると共に、警備保障会社との契約や、非常階段の設置など周辺環境の整備にも積極的に取り組んでいる。◎職員さんの自主性や前向きな気持ちを大切にしている。スピン・オフ・プロジェクトなどを通し、職員さんもホームの運営に参加できる体制を整えており、人材育成にも力を入れている。◎情報開示にも力を入れており、ホームページやブログなどを通し、積極的にホームの良さを理解していただく活動を行っている。◎利用者さんの健康管理に力を入れており、いつもと違う変化を見逃さず、病気の早期発見・早期治療に積極取り組んでいる。